

第2学年英語科学習指導案

日時：平成20年9月12日（金）1校時
学級：盛岡市立下橋中学校 2年3組
（男子14名 女子16名 計30名）
授業者：堤 晶子

1 単元名と本時のタイトル

Unit4 Homestay in the United States ~Reading for communication 「注意すべきことを書こう」～
(NEW HORIZON ENGLISH COURSE BOOK2 pp.42-43)
「紹介文を書こう」

2 単元について

本単元はアメリカでのホームステイがテーマである。どこの国であっても、その国の文化、習慣そしてその国の人を知るにホームステイが最良の方法の1つと考えられる。事前に心構えや、ステイする家庭のルール、マナーをできるだけ知っておくことが重要となる。またステイ先の好環境を期待しがちであるが、国や家庭にもよるが、大歓迎されいつも家族が気を遣ってくれるわけではないこと、家族の一員として役割を担うケースがあることも心得ておく必要がある。英語によるコミュニケーション能力が身に付いているのは望ましいが、実際には人間的な深いかかわりやコミュニケーションが重要であることに触れた題材となっている。

今回Reading for Communicationの題材として、アメリカホームステイ中でのサマースクールで、奈々は相談事をカルロは苦情をノートに書き、先生がそれに応答する場面に触れている。奈々の「多すぎる食事」という相談に対して先生は「礼儀正しく、はっきり」と伝えることを助言し、またカルロの「どこにも連れて行ってもらえない」という苦情に対して先生は「ホストファミリーを比較しないこと、自分を客と勘違いしてはいけない」と答えている。

Unit4では、have to..., don't have to, will, must, must not..., の形や意味、その使い方を学ぶ。ここではホームステイを扱いながら、コミュニケーションの基本的態度について考えるとともに、have to, will, mustといった助動詞類を扱う上で適した場面設定となっている。アメリカのホームステイに関する対話文や注意すべきことについての内容を基に、Unit4で学んだ助動詞類を含む英文を用いた紹介文を書く活動を行う。そのため、語句や表現の意味や用法について理解させ、内容を読み取らせたい。

3 生徒について

2年3組の生徒たちは、4月に行った「英語学習」にかかわるアンケートの質問項目に対して、約8割の生徒が英語の授業に興味や関心をもっていると回答している。また英語を使って会話したり、英語の映画や音楽を理解したりできるようになりたいと思っている。しかし実際には、対話文や英文の聞き取り、簡単な英語問答はできるが、長文の内容読み取りや自分の考えなどを英語で書くことについて定着していない生徒もいる。そのため、現在、教科書本文の内容読み取りや、基本本文のドリル学習や書く作業を多く取り入れたりするようにしている。発言はあまり多くない学級ではあるが、英語の授業には前向きに取り組んでいる生徒が多い。

本単元では班毎にテーマを設定し、その調査活動の中からわかったことを英語でまとめて書く活動を行う。班のメンバーで協力しながら、全員が英語で書き、班の代表として発表できるようにしたい。また、他の班の発表について自分の考えや感想をまとめることができるようにもしていきたい。

4 指導の構想

(1) 研究とのかかわりから

本校英語科では「英語を用いて考え、伝え合う生徒の育成」-効果的な「読み」「書き」指導を通して-という研究主題を掲げ実践してきた。英語科でのコミュニケーション能力を「英語を用いて考え、伝え合うこと」と定義し、その力を高めるため、まとまった文章を「読み」、英語で「書く」ことについての指導が重要と考える。

本単元はアメリカでのホームステイがテーマである。ホームステイについて知識を深めるとともに、単元を通してhave to, don't have to / will / must, must notの助動詞類の文の形や意味、使い方について指導する。Starting Outでホームステイの基本的な心得を学ぶ。次にDialogでは実際ホームステイを体験する中で、日本とアメリカとの生活習慣の違いを知ることができる。Reading for Communicationでは、相談や苦情に対する助言や忠告の内容を理解しながら、「ホストファミリーの一員であるとはどういうことか」につ

いて考えることができる。教科書の本文に書かれている話題や場面を参考にし、それに対しての自分の意見や考えを持つこと、そして考えを述べたり話し合ったりすることを、授業の中で取り上げていきたい。

(2) 生徒の実態から

生徒は1年生で学んだことを活用し、まとまりのある英文を書くために、春休みの課題として日記や手紙を書くことに取り組んだ。また今年も1学期までの学習内容を生かし、「夏休みの出来事」として英語で書くことが夏休みの課題となっている。このような取組を積み重ねることで、さらに正確な英文を書くことができるようになると思う。

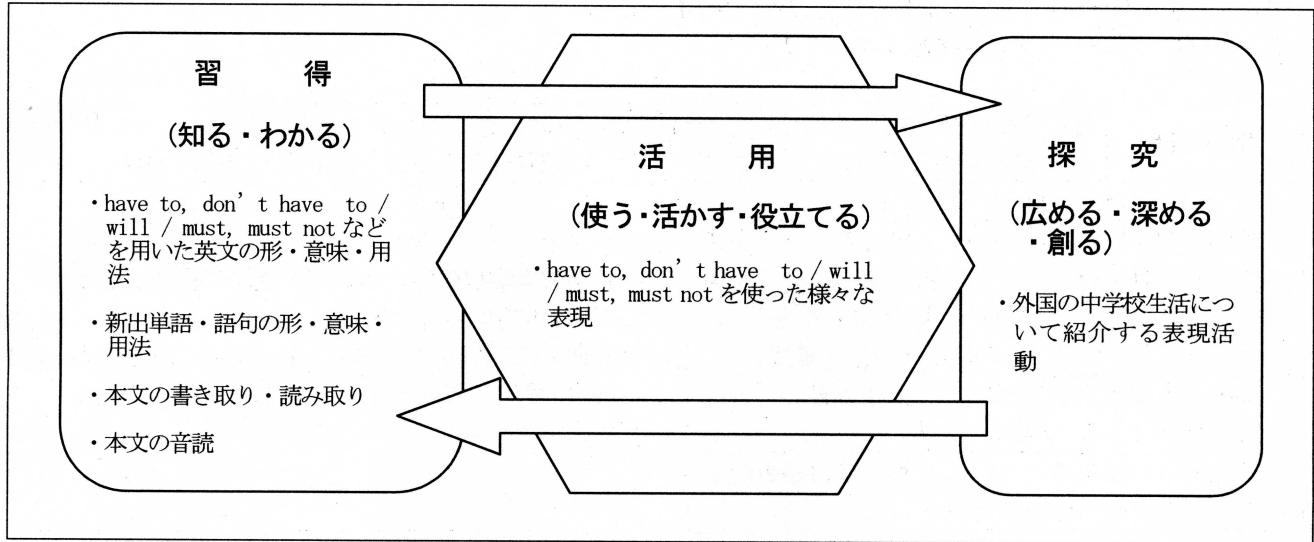
しかし、生徒が伝えたい内容を、正確に伝えることのできる英文を書くことは難しく、文法上の間違いや、文脈のつながり等も自分自身で吟味できる力が必要と思われる。そのためには様々な人達が書く、多くの英文に触れ、表現の仕方や文章の構成を学べる場面を、授業の中に位置付けることが必要と考える。

5 指導計画・評価計画

(1) 単元全体の評価規準

単元の目標	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
Unit 4 Homestay in the United States ○ アメリカでのホームステイの心得や現実問題について本文から読み取ることができる ○ have to, don't have to / will / must, must notの用法を理解し、適切な場面で使うことができる	聞くこと			
	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のpre-questionに対してその答えを見つけようとして熱心に聞く。 聞いて理解できない部分があっても継続して聞きながら、理解の手がかりを得ようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> have to, don't have to / will / must, must notの文の意味を正しく聞き取ることができる。 聞いた内容について話し手が一番強調したかった大切な部分を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の重要なメッセージが含まれている英文を聞き取ることができる。 話し手の発言の意図などについて理解することができる。
	話すこと			
	<ul style="list-style-type: none"> 間違えることを恐れずに既習の英語表現を用いて教科書本文の対話の一部の語句を言い換えて暗唱できる。 簡単なメモに基づいて不自然な沈黙をせず、明確な目的を持った内容の英文を話し続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話したいこと、伝えたいことを have to, don't have to / will / must, must not などを用いて聞き手に正しく伝えることができる。 have to, don't have to / will / must, must not を用いて自分がよく知る事柄についてアドバイスする文を言うことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> have to, don't have to / will / must, must not などを用いた英文を正しく言うことができる。 アドバイスするときに必要な事柄が理解できている。
	読むこと			
<ul style="list-style-type: none"> リーディングポイントの答えを見つけようとして英文を黙読している。 途中で意味がよくわからない表現があっても辞書を用いたり類推力を働かせて読み続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文を聞き手が理解できるように正しい発音、イントネーションで音読することができる。 感情を込めたり、必要な情報はゆっくり明瞭に音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の英文の内容について正しく読み取ることができる。 英文内容について大切な部分をすぐに理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に誤解を与えない発音やイントネーションを身に付けている。 ホームステイでの様々なトラブルや行き違いなどから、人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。 	
書くこと				
<ul style="list-style-type: none"> 間違えることを恐れずに既習の英語表現を用いて自分の知る事柄をアドバイスすることに熱心に取り組んでいる。 相手に理解してもらえようように表現方法などを工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> have to, don't have to / will / must, must not などを用いた英文を正しく書くことができる。 読み手に自分が調べたことがよく伝わるように表現を工夫することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> アドバイスするのにふさわしい表現を知っている。 外国の人々のものの見方や暮らし方などの違いについて理解している。 	

(2) 単元における「習得」「活用」「探究」の学びの流れ



(3) 単元の指導計画

時間	パート	おもな学習内容	学習目標	評価規準
第1時	Starting Out	1 have to... , don't have to を用いた文の形や意味、使い方について学ぶ。 2 ガイドブックを読み、ホームステイについての心得を知る。	○ have to... , don't have to を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	<ul style="list-style-type: none"> • have to... , don't have to を用いて英文を作ることができる。(表現・言語知識) • ガイドブックを読み、ホームステイについての心得がわかる。(理解)
第2時	Dialog	3 willを用いた文の形や意味、使い方について学ぶ。 4 ベッドメイキングについての慎とホストマザーの対話内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ willを用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。 ○ ベッドメイキングについての慎とホストマザーの対話内容がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> • willを用いて英文を作ることができる。(表現・言語知識) • ベッドメイキングについての慎とホストマザーの対話内容がわかる。(理解)
第3時	Reading for Communication	5 相談とそれに対する助言を読んで、内容を理解する。 6 mustを用いた文の形や意味、使い方について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相談とそれに対する助言を読んで、内容を理解できる。 ○ mustを用いた文の形、意味、用法を理解し、表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 相談とそれに対する助言を読んで、内容がわかる。(理解) • mustを用いて英文を作ることができる。(表現・言語知識)
第4時		7 苦情とそれに対する忠告を読んで、内容を理解する。 8 本文を参考にして、日本に来る外国人の人への簡単な助言・忠告ができる。 9 must notを用いた文の形、意味、使い方について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 苦情とそれに対する忠告を読んで、内容を理解できる。 ○ 本文を参考にして、日本に来る外国人の人への簡単な助言・忠告ができる。 ○ must notを用いた文の形、意味、用法を理解し、表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 苦情とそれに対する忠告を読んで、内容がわかる。(理解) • 本文を参考にして、日本に来る外国人の人への簡単な助言・忠告ができる。(表現) • must notを用いて英文を作ることができる。(表現・言語知識)
第5時		10 外国の中学校生活についての紹介文を、英語で書き、班で発表する。	○ pp. 42-43をてがかりにして紹介文を班で協力して書き、発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 的確な英語で紹介文を書くことができる。(表現) • 発音や抑揚に気を付けて英文を口頭発表できる。(表現)

6 本時について

- (1) 主題 外国の中学校生活について、英語で紹介しよう。
 (2) 目標、パフォーマンス課題、ルーブリック

指導目標	① 外国の中学校生活についての紹介文を、英語で書くことができるようにする。(表現の能力) ② 班で協力して書いた英語の紹介文を、口頭表現できるようにする。(表現の能力)
評価目標	評価方法
外国の中学校生活について、班毎のテーマを決めて調査活動を行ったり、辞書を使い紹介文を書いたりする活動に、積極的に取り組もうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)	◎「パフォーマンス課題」 「外国の中学校生活について、英語で紹介しよう」 外国の中学校生活について、班毎のテーマを決め、調査活動を元に紹介するポイントを決め、班で協力しながら英語で書く。そして書いた内容を学級内で発表し、相互評価を行う。
外国の中学校生活について、英語で書いて表現することができる。(表現の能力)	
外国の中学校生活について、英語で口頭表現することができる。(表現の能力)	

学習活動	評価項目	評価する活動・資料	ルーブリック			
			A	B	C	D
自分の班の紹介文を、英語で書くことができる。	意欲表現	観察ワークシートの作文(シート確認)	自分の班の紹介文について明確で正確な英文が書けた。班の活動を積極的にすすめた。	紹介のポイントを明確にした英文を自分で書くことができた。	不明な語や表現を、班の仲間に聞きながら、英文を書くことができた。	課題に沿った英文を書くことができなかった。見せてもらって書いた。
自分の班の紹介文を、口頭表現できる。	意欲表現	口頭発表の観察(発表)	班の代表として、発音や抑揚に気をつけて英文を口頭発表できた。	班で協力して書いた英文を間違わず自分で、口頭表現できた。	不明な発音を聞きながら、最後まで口頭表現できた。	班で協力して書いた英文を口頭表現できなかった。

(3) 本時の構想

本時は、生徒が興味、関心のある国について班でテーマを決め、その国の中学校生活を学級で紹介する英文を班毎に作り、発表することをねらいとしている。

生徒は前時までにホームステイをしている奈々の相談事やとカルロの苦情について先生がどのような助言や返事をしているか内容を理解している。奈々は、食事の量が多いことに困っていることを相談し、カルロは自分のホストファミリーがどこへも連れて行ってはくれないと苦情を言っている。先生からの助言や返事の中で、自分の気持ちや考えを「礼儀正しく、はっきり言う」こと、ホストファミリーを比較してはいけないこと、ホームステイは「家族の一員」になること等、ホームステイの心構えやステイ中の留意点として生徒に気付かせたい。

さて本時のテーマは、外国の中学校生活を英語で表現することである。その国にホームステイをし、中学校生活を送る際に、注意すべき点と考えられることを、班毎に資料集やインターネットでの調査から何点かに絞る。さらに班で協力しながら英文で書き、学級で口頭表現させたい。

留意させたいのは次の点である。

- a 班活動に意欲的に取り組ませる
- b 班内での英作文では、他人任せにせず、辞典を使って活動させる
- c 他の班で紹介したい点を発表前にまとめ、聞くポイントとしておさえさせる

普段は、個人やペアで助け合いながら活動すること多い。そのため今回班活動として、じっくり取り組むことはより多くの生徒とコミュニケーションを取り合いながら学習することができる絶好の機会である。班活動の良さを最大限活かしながら学習させたい。

(4) 展開

段階	学習課程	学習者の活動	時間	◎留意点 ◆資料 ☆評価
導 入	○ Warm up ○ 学習内容の確認	1 あいさつをする 2 前時までの調査活動の進捗を把握し、本時の課題を確認する	3	◆ワークシート1を配布
外国の中学校生活についての紹介文を英語で紹介しよう				
展 開	○ 課題解決のための確認	3 全体で紹介したいポイントをワークシートで確認する ① 班長を中心にポイントを確認する	5	◎班隊形を作る ◆ワークシート1 ☆班活動に進んで参加しているか 【意欲・観察から】
	○ 紹介文を英語で書く	4 紹介したいポイントについて、班で協力しながら英語で書く ① 取り組み方を確認する ② 班として紹介文を完成させ、班員全員がワークシートに記入する	20	◆辞典 ◎本時のルーブリックを確認する ◎辞典を使い、協力して班活動を行えるよう机間指導をする ☆紹介文を完成させたか【表現の能力・ワークシートから】
	○ 発表準備	5 各班の代表者が紹介文を発表する ① 班内で全員が音読するのを聞いて、発表者を決める	5	☆紹介文を英語で口頭発表できたか【表現の能力・観察から】
	○ 他の班の発表を聞き、メモや相互評価を書く	6 「聞くポイント」欄にメモしながら、他の班の紹介文を聞き、評価する	10	◆ワークシート2配布 ◎前時までに各班から出されている紹介文を「聞くポイント」についてメモしながら聞くことを指示する ☆集中して各班の発表を聞くことができたか【理解の能力・ワークシートから】
	○ 学級内でのふりかえり	7 学級内でのふりかえりを行う ① 「聞くポイント」について確かめる ② 英作文や発表、聞く態度について良かった点を共有する	5	
終 結	○ 自己のふりかえり ○ 次時の予告	9 ワークシートに自己評価を記入する 10 次時の学習内容を把握する	2	◎ルーブリックを確認しながら自己評価する ◎活動について評価し次時の予告をする